

Mスターコンテナとは…

①林業用コンテナ苗生産システム

宮崎県林業技術センターが開発、主な用途はスギ苗です

②全国での実績があります

スギ苗以外に、マツ苗・ヒノキ苗などの生産に活用されています
北海道から沖縄まで、広く全国で使われています

③防風林や雑木林の再生にも

シイヤクヌギフクギ等の広葉樹苗の生産にも活用されています
多くの雑木林再生プロジェクト等でも使われています

④林業外での活用事例

シキミやさカキの苗、ジャカラングの販売用苗
庭園等で使用する樹木の苗など、様々な用途で活用されています



Mスターコンテナ 6つの特徴

- ①根のルーピングを防止する
- ②根鉢径を調節できる
- ③個々の容器が独立している
- ④根を痛めずに、苗を取り出せる
- ⑤省スペースで保管ができる
- ⑥根を痛めずに、幼苗を移植できる



①根のルーピングを防止する

・開放された底部による空気根切り効果

底部が開放されていない容器で成長した根は、底部で団子状に絡まりあい、移植後の成長を阻害します。

根が空気に触れると成長が止まる性質を利用し、底部に達した根が変形するのを防止します。

・シート内部の縦筋による効果

内側が平滑な容器で成長した根は、容器に沿ってルーピングしながら成長するため、移植後に植物自身の根が絡まり成長が阻害されます。

根をシート内部の縦筋に沿って成長させることにより、ルーピングを防止し、移植後の根の成長がスムーズになります。



②根鉢径を調節できる

- シートの巻き加減で、根鉢径を調節

現在の規格品（16cm×24cm）で、巻き加減を調節することで、林業用コンテナ苗で一般的な200mlと300mlの2パターンに対応しております。

- 規格外製品にも、柔軟に対応

規格品（16cm×24cm）以外にも、必要なサイズで製造可能です。

（ただし、価格は変動いたします）

また、根が地表面に沿って成長する植物向けに、スリット入り製品の作成も可能です。

お気軽にご相談ください。



③個々の容器が独立している

- 苗木の移動・密度調整が可能です。

一般的なコンテナ苗生産では、コンテナが独立していないことにより、成長不良の苗の移動が出来ずに管理がしにくい、出荷時の苗木の密度によっては全てのコンテナ穴を利用できず不経済である、等の問題があります。

Mスターコンテナでは、成長に応じて苗木を自由に移動できるため、不良苗だけをピックアップして管理が可能です。また、定植初期は高密度で育成し、成長に応じて密度を下げることも可能で、コンテナ資材とコンテナ設置スペースを経済的に活用できます。



④根を痛めずに、苗を取り出せる

・シートを展開するだけで、すぐ移植

ポット苗や一般的なコンテナ苗から根の充実した根鉢を取り出す際には専用の治具が必要であったり、水切り穴から伸長した成長中の根を切断してしまいます。

Mスターコンテナでは、シートを展開するだけで根鉢を取り出すことが可能で、成長中の根を痛める恐れがありません。

・育成中も、根の形状を確認

丁寧にシートを展開することで、いつでも根の形状を確認できます。育成不良苗の選別や病気・害虫の状況も目視で確認できます。

また、植物や森林学習の資材としても高く評価されています。



⑤省スペースで保管ができる

- シートとトレーを別々に保管可能

一般的なコンテナ苗資材の保管には、かなりのスペースが必要です。

Mスターコンテナは、シートとトレイを別々に保管することで、省スペースで保管が出来ます。

- 資材の消毒も効率的に

シートを再利用する際には、必要に応じて消毒作業を行います。

Mスターコンテナは、広げて束ねたシートのみを消毒すれば良いため、作業が非常に楽で、短時間で作業可能です。



⑥根を痛めずに、幼苗を移植できる

• 巻き寿司の様に、幼苗を移植

セルトレイ等で発芽させた幼苗を、ポットやコンテナに移植するのは、根を傷める可能性が高く、難しい作業です。

Mスターコンテナで巻き寿司の様に移植することで、根を傷めることなく、誰でも簡単に移植作業が可能です。



• 作業時期が広がります

セルトレイ等で発芽させた幼苗を、ポットやコンテナに移植する期間は、根があまり伸長していない時期に短期間に行う必要があります。

Mスターコンテナで巻き寿司の様に移植することが可能な為、かなり伸長した根であっても移植可能です。

その為、作業可能な時期が広がり、他の作業と融通することで、人



員を有効に活用できます。